

# ダークネットトラフィックの相関分析

深澤成孝<sup>†1</sup> 佐藤直<sup>†1</sup>

ダークネットでは、DDoS 攻撃、DNS アンプ攻撃などの大規模な攻撃を行うための事前活動や新しいマルウェアの出現によるスキャン活動などのトラフィックが観測される事例が数多く報告されている。また、近年、官公庁・政府機関・企業などを狙った標的型攻撃や新たな攻撃手法である水飲み場型攻撃などのサイバー攻撃は、今まで以上に高度化・巧妙化している。

本論文においては、日本における NICTER と世界規模の NORSE、二つのダークネット観測網のトラフィックデータの相関分析を行い、両者のダークネットトラフィックに相関関係があることがわかった。

## Correlation Analysis of darknet traffic

HIDETAKA FUKAZAWA<sup>†1</sup> NAOSHI SATO<sup>†1</sup>

In the darknet, abnormal packet traffic related with prior activity for performing DDoS attacks and DNS amp attack can be observed. Scanning activity by some new malware could be detected also on the darknet. So far many researchers have identified various types of attacks with the analyses of darknet traffic and delivered effective information of detecting an attack at an early stage. They are an offensive omen and an omen of large-scale infection. Especially in recent years, the cyber attacks have been sophisticated, and some of them are called APT (Advanced Persistence Threat) which targets government and related agencies and companies.

In this paper, we perform a correlation analysis of traffic data of two different darknet observation systems, NICTER and NORSE. It was found that there is a correlation between the darknet traffic observed in these two systems.

### 1. はじめに

インターネットは、個人、企業が生活や仕事を行っていく上で必要不可欠なものとなっている。今日では、インターネットの普及とともに、情報は紙媒体から電子媒体、アナログからデジタルへなどの移行が進み、個人情報、金融情報、国家の機密情報など多種多様な情報がインターネットと接続される環境に置かれている。一方、悪意のある利用者による攻撃がインターネットで後を絶たず、近年では、一昔前までとは異なり、攻撃の精度はより高度化・巧妙化している。その代表的な攻撃として、官公庁・政府機関・企業などを狙った標的型攻撃[1]や水飲み場型攻撃[1]などが発生している。また、特定の機関や企業を狙った攻撃だけではなく、全世界のユーザをターゲットとした大規模な感染を狙ったマルウェアによる攻撃やソフトウェアの脆弱性を狙った攻撃なども行われている。

上記のような多様な攻撃が行われているインターネット空間において、マルウェアの発生、DDoS 攻撃などのセキュリティインシデントを検知する方法の一つとして、インターネット上で到達可能かつ未使用な IP アドレス空間であるダークネットに関する研究がある。ダークネットに届くトラフィックは、インターネット空間における数多くある攻撃の準備段階の一つであるとされ、多くの研究がなされている。

本研究においては、日本における NICTER と世界規模の NORSE で観測されるダークネット網のトラフィックデータを相関分析することにより、ダークネットトラフィックの特徴を見つけ出すことを目的とする。

### 2. ダークネットの特徴

本章では、ダークネットの観測網及びダークネットでの観測状況について述べる。

#### 2.1 ダークネットの観測網

日本での大規模なダークネット観測を行っている機関の一つに、情報通信研究機構 (NICT) [2]がある。NICT では、インシデント分析センターNICTER[3]を使用してダークネット網の観測を行っている。NICTER では、日本で未使用の IP アドレス群である 2.1 万アドレスからなるダークネット網を日々観測し、独自の解析システムで分析を行い、脅威が検知されれば、関係機関等への注意喚起を行っている。



図 1. NICTER の全体像[4]

<sup>†1</sup> 情報セキュリティ大学院大学  
Graduate School of Information Security INSTITUTE of INFORMATION SECURITY

次に、世界での大規模なダークネットの観測を行っている機関の一つに、米国セキュリティ会社の NORSE 社[5]がある。NORSE 社では、40 カ国以上、数百ヶ所のダークネットにハニーポットを仕掛け、収集される情報を分析している。その分析した情報を、2014 年 3 月 20 日から新しく改良した NORSE IPViking Live(国家間のサイバー攻撃を可視化したツール)を使用し、一般に公開している[6]。なお、公開されるデータは閲覧性などの理由で全体の1%程度。



図 2. NORSE IPViking Live の画面[6]

その他に、大規模なダークネット観測網を設置し研究を行っている主な機関は以下のとおりある。

- ・ PRACTICE : 総務省の研究開発委託「国際連携によるサイバー攻撃予知技術の研究開発 (PRACTICE)」によるダークネット観測プロジェクト[7]。

- ・ Network Telescope : 米国のカリフォルニア大学の CAIDA (Cooperative Association for Internet Data Analysis) によるダークネット観測プロジェクト。1600 万アドレス以上のダークネットを観測[8]。

- ・ Internet Motion Sensor : 米国のミシガン大学による 1700 万アドレス以上の大規模ダークネット観測プロジェクト [9]。

## 2.2 ダークネットでの観測状況

ダークネットとは、インターネット上で到達可能かつ未使用な IP アドレス空間のことをいい、通常、未使用な IP アドレス空間に通信が届くことはほとんどないが、実際は、ダークネットの IP アドレス空間に対して、毎日多くのパケットが届いている。今までに NICTER で観測されたダークネットのトラフィック量は表 1 のとおりであり、ダークネットで観測されているデータは、毎年増加の一途を辿っていることがわかる。

表 1 ダークネットトラフィック量[4]

年	年間 総観測パケット数	観測IPアドレス数	1IPアドレス当たりの 年間総観測パケット数
2005	約 3.1億	約1.6万	約19,066
2006	約 8.1億	約10万	約17,404
2007	約 19.9億	約10万	約19,855
2008	約 22.9億	約12万	約25,242
2009	約 35.7億	約12万	約64,304
2010	約 56.5億	約12万	約74,952
2011	約 45.4億	約12万	約59,987
2012	約 77.9億	約19万	約65,614
2013	約128.8億	約21万	約92,835

## 3. ダークネットの有用性

本章では、ダークネット観測から見えてきた攻撃の種類及び攻撃の予兆について述べる。

### 3.1 ダークネット観測から見えてきた攻撃の種類

ダークネットは、通常、ユーザが利用しない未使用の IP アドレス空間であるため、この空間でなんらかの大量の通信が観測された場合、何らかの攻撃が行われていると予想することができる。2005 年から現在までにかけて、NICTER のダークネット網で観測を行ってきた結果、以下の 4 種類の攻撃予兆などが見えてきた。 [4]

#### (1)マルウェアによるスキャン

- ・「ワーム側マルウェアの探索活動」・マルウェアに感染したホストが次の感染先を探すためにネットワークのスキャン活動を行った際に観測される通信。

- ・「マルウェア感染の大局的傾向」・マルウェア感染行動によって引き起こされる通信のパターンによって、新たなマルウェア発生の予兆が検知できる可能性。

- ・「感染爆発の前兆」・マルウェアの振る舞いパターンによって、マルウェアの大規模感染の予兆が検知できる可能性。

#### (2)DDoS 攻撃の跳ね返り

- ・「送信元 IP アドレスが偽装された SYN Flood」・backscatter 攻撃による跳ね返りが送信元 IP アドレスを偽装された第三者に送信されたことを検知。

- ・「被攻撃サーバからの応答 (SYN-ACK)」・偽装された IP アドレスからの SYN Flood 攻撃により、攻撃先のサーバから返答される SYN-ACK を検知することで、SYN-Flood 攻撃が行われていることを検知。

- ・「DDoS」攻撃の早期検知・DNS トラフィックが大量に検知されることにより、DDoS 攻撃が行われていることを検知。

#### (3)設定ミス

- ・「ネットワーク機器やサーバ機器などの設定ミス」・システム構築時やネットワーク運用中の設定ミスによるパケットの検知。

#### (4)リフレクション攻撃の準備活動

- ・「DNS Open Resolver 探索」・Open Resolver である DNS サーバを探し出し、DNS amp 攻撃を仕掛ける前の前兆を検知。

- ・「NTP 探索」・NTP サーバを探し出し、DDoS 攻撃を仕掛ける前の前兆を検知。

### 3.2 ダークネット観測から見えてきた実際の攻撃予兆

NICTER のダークネット観測網で見えてきた実際の攻撃予兆の一例として、2013 年 3 月 18 日に発生した「Spamhaus への DDoS 攻撃」がある。Spamhaus とは、スパム対策のサービスを全世界向けに行っている英国を拠点に活動する非

営利団体のことであり、多くのインターネットユーザのスパムメールなどをフィルタリングする支援などを行っている[10]。この DDoS 攻撃は最大で 300 Gbit/s の規模にも及ぶものであり、使われた手法が 3.1 で取り上げた「DNS amp 攻撃」である。

DNS amp 攻撃とは、DNS の名前解決の特性を突いた攻撃手法である。通常、DNS 通信は、要求と応答の二つから成り立っており、応答には要求と回答の二つが含まれている。そのため、DNS 通信は要求よりも応答の方がデータサイズが大きくなる特性があり、この特性を利用して図 3 の攻撃手法を用い DDoS 攻撃を行ったものである。この攻撃では、DNS 要求時のデータサイズが 26byte に対し、応答時のデータサイズは 821byte となり、約 32 倍の増幅であった。

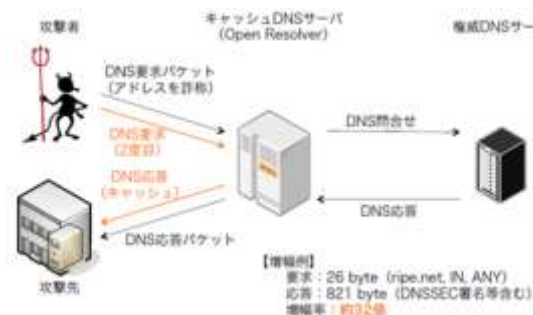


図 3 DNS amp 攻撃の概要[4]

DNS amp 攻撃を行うにあたり、Open Resolver サーバが IP アドレス空間上のどこに設置されているかを確認する必要があるため、UDP/53 による Open Resolver の探索スキャンが事前に発生することになる。実際に、NICTER のダークネット観測網では、図 4 のとおり一時的に Spamhaus 攻撃日の前後に、UDP/53 による Open Resolver の探索スキャンが発生していた。



図 4 パケット数 (宛先 53/UDP) [4]

#### 4. ダークネット観測における関連研究

本章では、ダークネット観測における先行研究は幅広いが、ここでは本文の研究目的と関連する先行研究について述べる。

#### 4.1 複数国ダークネット観測による攻撃の局地性分析 [11]

この研究では、総務省の研究開発委託「国際連携によるサイバー攻撃予知技術の研究開発 (以下、PRACTICE)」を利用した研究であり、PRACTICE では、国際連携の一環として連携国に対してダークネットセンサを設置し、ダークネットトラフィックの観測・分析、サイバー攻撃情報の共有等を行っている。この研究では、4カ国のダークネットで観測される攻撃の傾向の比較を行い、特定国においてのみ観測されたり特定国からのみ届くなど局地性のある攻撃について分析を行っている。

その結果、実際に特定国から当該国に対してのみ観測される特徴的な攻撃が確認された。このような攻撃の情報を当該国に提供することで、各国の事情に合ったより効果的な対策を行うことができると期待される。

#### 5. ダークネットトラフィックの相関分析

今まで述べたことから、ダークネット網で観測されるトラフィックを解析することは、ライブネットにおける攻撃を事前に把握可能として有用性が高いことがいえる。

については本研究においては、日本の NICTER で観測されるダークネット網では、海外のダークネット網のトラフィックと分析を行った事例はないことから、日本の NICTER と米国 NORSE 社の NORSE IPviking Live で観測されたトラフィックの相関分析を行う。

日本と世界規模で観測されているダークネット網のトラフィックデータを以下の基準を基に分析を行った。

##### (1) 対象データ

日本 NICT : NICTER Darknet 2014

NONSTOP を利用してデータを収集

世界 NORSE : NORSE IPviking Live (以下、NORSE と呼ぶ)。Wireshark を利用してデータを収集

##### (2) 対象期間

2014 年 10 月 7 日～2014 年 11 月 4 日

##### (3) 相関分析で使用する NICTER 及び NORSE での取得項目

NICTER ・ ・ 観測時刻、攻撃元 IP アドレス・port ・国

NORSE ・ ・ 観測時刻、攻撃元 IP アドレス・port ・国、  
 攻撃先国

##### 5.1 日別での検知数

###### (1) 日別での検知数 (一覧)

検知数を一覧にしたところ、表 2 のとおり NICTER 及び NORSE とともに大量にダークネット網へのトラフィックデータを検知していることが判明した。







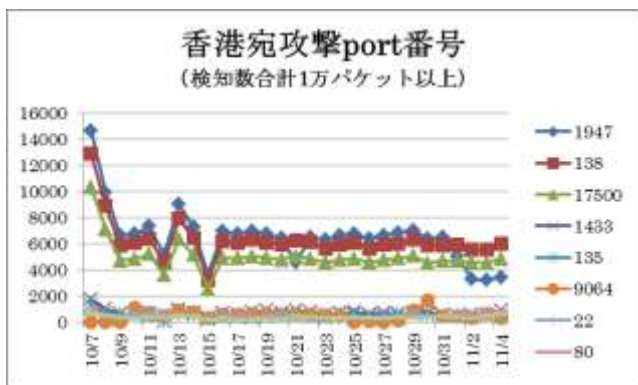


図8 香港宛攻撃 port 番号検知数

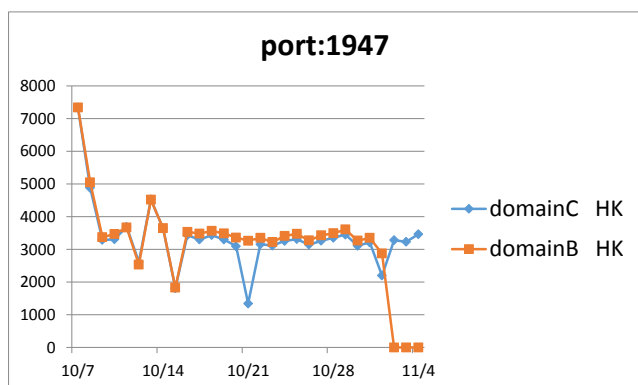


図9 port:1947 の IP アドレス検知数

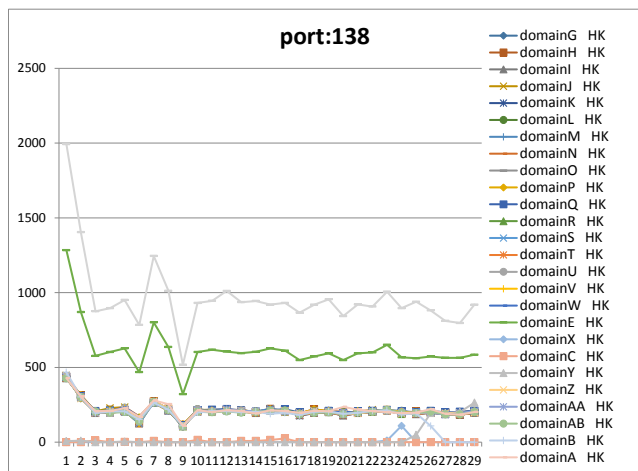


図10 port:138 の IP アドレス別検知数

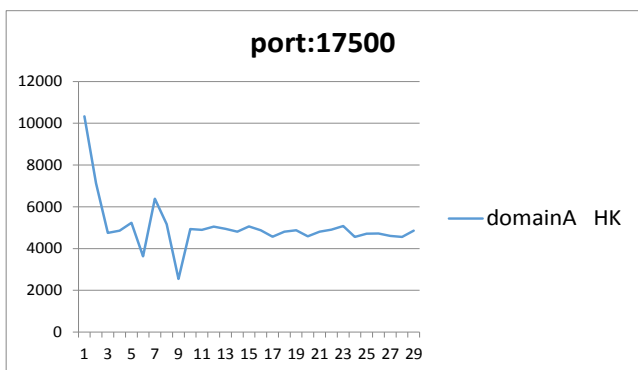


図11 port:17500 の IP アドレス別検知数

次に、攻撃元 IP アドレスで観測された香港の IP アドレス群を香港以外の国でも検知していないか調べたところ、表8のとおりすべて香港のみで検知していることが判明した。なお、NICTERにおいては、検知がなかった。

表8 香港宛 IP アドレスの全体及び香港宛の検知数

項目	IPアドレス	国	10/7	10/8	10/9	10/10	10/11	10/12	10/13	10/14	10/15	10/16
検知数全体	domainA	HK	10765	7434	4960	5067	5462	3798	6669	5425	2660	5150
香港宛の検知数			10765	7434	4960	5067	5462	3798	6669	5425	2660	5150
検知数全体	domainB	HK	7804	5352	3569	3672	3874	2684	4782	3864	1937	3734
香港宛の検知数			7804	5352	3569	3672	3874	2684	4782	3864	1937	3734
検知数全体	domainC	HK	7338	4880	3302	3305	3690	2612	4536	3633	1813	3450
香港宛の検知数			7338	4880	3302	3305	3690	2612	4536	3633	1813	3450
検知数全体	domainD	HK	1993	1404	875	896	951	784	1245	1012	518	931
香港宛の検知数			1993	1404	875	896	951	784	1245	1012	518	931
検知数全体	domainE	HK	1284	870	577	603	627	468	801	636	321	603
香港宛の検知数			1284	870	577	603	627	468	801	636	321	603

項目	IPアドレス	国	10/17	10/18	10/19	10/20	10/21	10/22	10/23	10/24	10/25	10/26
検知数全体	domainA	HK	5100	5269	5153	5005	5276	5086	4763	5015	5083	4828
香港宛の検知数			5100	5269	5153	5005	5276	5086	4763	5015	5083	4828
検知数全体	domainB	HK	3691	3770	3688	3562	3453	3546	3403	3614	3679	3460
香港宛の検知数			3691	3770	3688	3562	3453	3546	3403	3614	3679	3460
検知数全体	domainC	HK	3297	3433	3309	3104	1357	3177	3114	3258	3312	3143
香港宛の検知数			3297	3433	3309	3104	1357	3177	3114	3258	3312	3143
検知数全体	domainD	HK	945	1011	936	944	920	931	866	919	955	843
香港宛の検知数			945	1011	936	944	920	931	866	919	955	843
検知数全体	domainE	HK	618	606	595	604	627	612	549	573	594	549
香港宛の検知数			618	606	595	604	627	612	549	573	594	549

項目	IPアドレス	国	10/27	10/28	10/29	10/30	10/31	11/1	11/2	11/3	11/4
検知数全体	domainA	HK	5023	5117	5283	4755	4908	4943	4795	4747	5059
香港宛の検知数			5023	5117	5283	4755	4908	4943	4795	4747	5059
検知数全体	domainB	HK	3624	3703	3821	3450	3543	2980	0	0	0
香港宛の検知数			3624	3703	3821	3450	3543	2980	0	0	0
検知数全体	domainC	HK	3260	3352	3451	3107	3211	2195	3279	3231	3463
香港宛の検知数			3260	3352	3451	3107	3211	2195	3279	3231	3463
検知数全体	domainD	HK	921	907	1006	896	939	881	811	797	920
香港宛の検知数			921	907	1006	896	939	881	811	797	920
検知数全体	domainE	HK	594	600	651	567	561	573	564	564	585
香港宛の検知数			594	600	651	567	561	573	564	564	585

このことから、香港に対して何らかの活動が行われていた可能性がある。ここで取り上げた三つのポートは主に以下の用途で利用するものである。

(1) port:1947

Port:1947の主な用途として、HASP License Manager との利用がある。ソフトウェアのライセンスマネージャーとして利用することが可能であり、ソフトウェアの仕様としてPort:1947を利用して、ネットワーク越しにアクセス管理やログを取得可能な製品もある。

(2) port:138

Port:138は、ファイル共有として利用することが可能なポートであり、家庭内などの閉じたネットワークでの利用が原則であり、外部に対して開放している場合、外部からの侵入口となってしまいう危険性がある。通常は、ポートを閉じておくことが常識となっている。

(3) port:17500

Port:17500は、Dropboxで利用するLAN同期を必要とする場合に必要となるポートである[12]。LAN同期を有効とした場合、同一ネットワークにブロードキャストアドレスを大量に送信することが確認されている。実機を用いて検証したところ、図11のとおりブロードキャストアドレスが大量に送信されることが確認された。

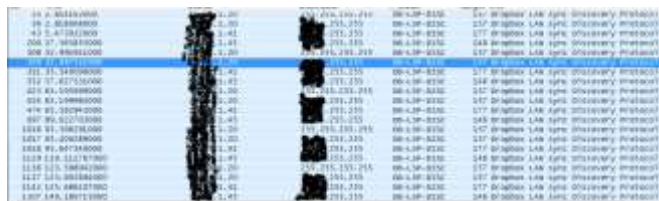


図 1 1 Dropbox 利用時のブロードキャスト

香港のデモでは、iCound に大規模なハッキング攻撃があった事件が報道[13]され、その目的として、香港で続く大規模デモの写真や動画が中国本土で拡散するのを防ごうとした狙いがあったのではないと推測されている。また、当局によるインターネット規制が多くあったことから、SNS等のソーシャルメディアの利用が加速され、その一環として、ファイルを共有できる Dropbox の利用が促進された可能性がある。これにより、port:17500 が大量に観測されたのではないだろうか。

また、推測の域は出ないが、port:1947,138 は香港に対して何らかのスキャン等の活動が行われていた可能性がある。

なお、2015年1月19日から27日までの期間で、NORSEで同様のIPアドレスから香港宛への観測状況を確認したところ、1件も確認されなかった。このことから、特定期間で利用されたIPアドレス群であった可能性がある。

## 6. まとめと今後の課題

本稿では、NICTER 及び NORSE で観測されるダークネットトラフィックの相関分析を行った。分析の結果、日本と世界で観測されるダークネットトラフィックには相関関係があることがわかった。また、どちらか一方だけでは不明なことでも双方で分析を行うことで、新たな特徴を発見することができることもわかった。さらに、世界規模でのニュースとの分析においても、ダークネットトラフィックを分析することにより、ターゲットとされているポートや地域を推測することが可能であることがわかった。

今後は、より広範囲の期間を対象として分析を行うことで、日本と世界で観測されるダークネットトラフィックの傾向を見出すことができると考えられる。

## 7. 謝辞

本研究では、NICTER が保有しているサイバーセキュリティ情報を遠隔から安全に利用するための分析基盤 (NONSTOP) にて提供されるダークネットデータを利用した。貴重なデータセットを提供して頂いた NICTER の関係者各位に深く感謝します。

## 8. 参考文献

- 1) トレンドマイクロ株式会社, ”2013 年国内における持続的標的型攻撃の分析”  
[https://app.trendmicro.co.jp/doc\\_dl/select.asp?type=1&cid=81](https://app.trendmicro.co.jp/doc_dl/select.asp?type=1&cid=81) (最終閲覧日 2015/01/22)
- 2) 独立行政法人 情報通信研究機構, <http://www.nict.go.jp/> (最終閲覧日 2015/01/22)
- 3) 独立行政法人 情報通信研究機構, ”インシデント分析センター NICTER の研究開発概要”, 情報通信研究機構季報 Vol.57 Nos.3/4 2-1
- 4) 独立行政法人 情報通信研究機構, ”第 2 部 ダークネットからライブネットへ—サイバーセキュリティ研究最前線—”, NICT 情報通信セキュリティシンポジウム 2014~情報セキュリティ技術の現状と今後~
- 5) NORSE Corporation, <http://www.NORSE-corp.com/darklist.html>(最終閲覧日 2015/01/22)
- 6) NORSE IPViking Live, <http://map.ipviking.com/>(最終閲覧日 2015/01/22)
- 7) 総務省, ”政府における情報セキュリティ政策の取組について”, 2014.1.15
- 8) CAIDA, <http://caida.org/home/>(最終閲覧日 2015/01/22)
- 9) M.Bailey,E.Cooke,F.Jahani,A.Myrick, and S.Sinha, ”Practical darknet measurement.” Information Sciences and Systems, 2006 40th Annual Conference on, pp.1496-1501, IEEE, 2006.
- 10) ‘SPAMHAUS’ <http://www.spamhaus.org/>(最終閲覧日 2015/01/22)
- 11) 鈴木将吾, 小出駿, 牧田大祐, 吉岡克成, 松本勉, 笠間貴弘, 衛藤将史, 井上大介, 村上洗介, 島村隼平 “複数国ダークネット観測による攻撃の局地性分析” CSS2014
- 12) LAN 同期について, <https://www.dropbox.com/ja/help/137>(最終閲覧日: 2015/2/8)
- 13) 中国関与? i C l o u d に大規模ハッキング攻撃 香港デモ写真削除狙う,  
<http://www.sankei.com/world/news/141023/wor1410230016-n1.html>(最終閲覧日: 2015/2/8)